

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

【概要】

日 時：令和6年2月16日（金）午後7時～8時30分

会 場：本校2F 応接室

参加者：（委 員）新崎会長、井関副会長、佐藤委員、重尾委員
（事務局）准校長、教頭、事務主査、首席、書記

【配布資料】

- ・第3回学校運営協議会 次第
- ・各分掌委員会、クラブ活動等の総括及び報告資料
- ・学校評価アンケート肯定度経年変化資料
- ・授業アンケート評価の経年変化資料
- ・スクール・ポリシー
- ・令和5年度学校経営計画及び学校評価（案）
- ・令和6年度学校経営計画（案）及び学校評価

【内容】

1. 開会のあいさつ（准校長より）

2. 報告

（1）学校行事・クラブ活動等について（首席より）

①近況報告

・学校内近況

防災訓練および薬物乱用防止教室

保護者向け体験実習会（おでん作り教室、野菜収穫体験）

リーディングGIGAハイスクール公開授業

職員人権研修（LGBTについて、生活保護制度について）

なごみカフェ クリスマスイベント・節分行事（生徒の居場所づくり）

生徒人権教育（対人コミュニケーションスキル、異文化理解）

生活指導部による交通安全教室

・地域連携

NPO法人 食育講座・こども食堂への食材提供

地域連携幼稚園 感謝巡り行事

②各分掌総括

・教務部

在籍数説明

来年度に向けての課題

式典規模の適正化

・生活指導部

車両登録状況

部活動加入人数が減少傾向にある

・生徒会活動

御舟町クリーンキャンペーンに参加

・保健部

保健室への来室生徒数について ※増加傾向

各検診の受診率について

心肺蘇生講習会

・進路指導部

就職関係 前回協議会から増加あり

・生徒支援委員会

今年度より発足

SSW・SCの活用

学習支援員 夜間介助員の活用

教員向け研修

③資格取得状況についての説明

④部活動活動報告

(2) 第2回授業アンケート結果について(准校長より)

全体として依然右肩上がりに肯定度が上昇している傾向。90%を超えている。

(3) 令和5年度学校教育自己診断の結果について(准校長より)

- ・学校評価アンケート項目において一人一台端末に関する項目が追加されている。
- ・肯定度は全体で数パーセントほど上昇。ただし下降項目もあるため、一概に喜ぶことは出来ない結果となった。

(4) 令和5年度学校経営計画及び学校評価(案)について

令和6年度学校経営計画(案)及び学校評価について(准校長より)

- ・学校評価アンケートの結果をもとに自己評価欄を作成
- ・令和6年度より、「不登校による中途退学率を5.0%以下」目標新設

3. 協議（議長 新崎会長）

（新崎会長より）

感想

- ・NPO など外部講師の活用が目立ってよかった。内容も現代の社会的な課題に寄り添った内容であると感じた。
- ・生徒向けの講演について、ブラックバイトや社会保障を学ぶ取組みがあってもよかったのでは？教員からかみ砕いて生徒へ研修してみても良いかと。
- ・なごみカフェのような取組みは小中学校では多いが、高校ではあまり見かけない。高校での取組み例は少ないと思うが、有効であると思う。

質疑・応答

Q. 一人一台端末についての教員視点でのメリット、デメリットが聞きたい。

A. 端末を活用しないといけないという意識や、習熟度の差に開きがあり、教員間のギャップを埋めるのは大変だった。きめ細かい研修で意識が一体化しつつある。メリットは生徒の方が端末やテクノロジーへの慣れがあるので授業に生徒の意識を容易に向けることができる。また、うまくアプリケーションを活用すると授業準備時間の大幅な短縮や生徒の興味関心を惹きつけやすくなる。

（井関副会長より）

Q. 生徒の自死が増えている社会の現状で、人間（教員）によるきめ細かい指導が売りの藤井寺工科において、教員の2名減は痛手に見える。人手は多い方が良いと思うが、2名減はどのように決定されたのか？

A. 生徒数やクラス数に応じて教育庁が決定するため、どうしても避けられないのが現状である。

（井関副会長より）

事故や自死事象が起きた時、人手不足が原因となってほしくない。どうにか増やす。最低でも現状維持をしてほしい。

（上記を踏まえて新崎会長より）

定数的な減ではなく、生徒の実情などを踏まえたプロフェッショナルの確保として、教員定数の配置要望をしてほしいと協議会より声を挙げておきたい。

（重尾委員より）

- ・人員に関しては根本的に雇用不足による人員不足。なり手がいない。それに伴い高齢化に歯止めが効かない状況となっている。教員という存在は生徒にとっても保護者以外で相談しやすい大人の最有力候補であるので定数確保を行ってほしい。

- ・取組みの中で出てきた企業連携などは大人への憧れなどを育みつつキャリア教育も出来るのでとても良い取組みであると思う。
- ・ICT教育がとても進んでいるように見受けられた。しかし、その反面ダークな一面をもっており、見えない所で悪用する事例が社会的問題になりつつあるので、教員がそれらも踏まえた上で活用する必要がある。特にネットモラル。そういう事も生徒向け研修などで行うと効果的であると思う。
- ・地域連携は生徒と地域が直接係わる機会を作ってあげてほしいが、実情として定時制のため時間が合わないので、機会が確保しにくい。

(佐藤委員より)

製紙業界ではデジタルも大切であるが、紙ベースも合わせていく必要があると考えられている。デジタル機器は便利な反面、起きる懸念事項としては人と人がコミュニケーションを直接取る機会が減るため対人スキルが低下する傾向が見受けられる。学校内においても伴わないか心配。

(新崎会長より)

進路未定での卒業生を減らすように引き続き取組んでほしい。また、防災について夜間の災害時に生徒と地域がつながるような取組みがあっても良いかと思う。心の育成につながる。

4. 閉会のあいさつ (准校長より)